

陸連時報 三

2017
平成29年

1

月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

強化関連情報(強化委員会).....	166
第3期ダイヤモンドアスリート認定式および修了式2016-2017第1回リーダーシッププログラム報告 (強化育成部幹事(青山学院大学) 遠藤俊典)	
強化委員会一覧	
強化委員会組織図	
第42回世界クロスカントリー選手権大会(2017/カンパラ)日本代表選手選考要項(案)	
功労章・秩父宮章・高校優秀指導者章・中学優秀指導者章・勲功章・競技者育成章.....	171
第85回アジア陸上競技連盟(AAA)カOUNシル会議 報告(会長 横川浩) / IAAFガバナンス体制改革に関するエリア説明会報告(陸連事務局事業部国際専任部長 関幸生).....	174
2016 国際陸連CECSレベルI講師リフレッシュセミナー報告.....	175
第12回全国小学生陸上競技交流大会優秀選手「研修会」報告 (普及育成委員会 普及育成部副部長 熊原誠一).....	176
2017 X-RUN CHIBAクロスカントリー大会.....	178
大会観戦ガイド.....	179
陸協NEWS.....	180
事務局からのお知らせ.....	182

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

強化関連情報

強化委員会

第3期ダイヤモンドアスリート認定式および修了式 2016-2017第1回リーダーシッププログラム報告

強化育成部幹事（青山学院大学） 遠藤俊典

1. 第3期ダイヤモンドアスリート認定式および修了式報告

2016年11月21日（月）、味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて第3期となるダイヤモンドアスリートの認定式を行った。2016-2017ダイヤモンドアスリートは、昨年度からの更新8名、新規認定の1名の計9名とした（表1）。同時に、2014-2015に第1期生として選出された選手たちを「プログラムの修了生」として認定する修了式を行った。修了生の一覧を表2に示した。

本連盟の横川浩会長に挨拶をいただいた後、小池百合子東京都知事による認定証および修了証の授与が行われた。2020東京五輪を目指すダイヤモンドアスリートにとって、ホームグラウンドの代表である都知事からの授与は、目標の具体化・明確化には十分な刺激であった。さらに、小池都知事から、激励の言葉をいただき、選手たちは改めて東京五輪がすぐ近くにあることを認識できていたようであった。最後に、2016-2017ダイヤモンドアスリートを代表して、東京都の八王子高等学校3年生の橋岡優輝選手の挨拶をもって閉式とした。なお、会場には数多くのメディアにお集まりいただいた。五輪でメダルを獲得したり、国際的な選手・人間となったりした場合にはメディアとの関係は切っても切り離せないものとなることから、すでにこの段階からメディアから注目され、取材を受けうことは非常に重要な経験であった。

2. 2016-2017第1回リーダーシッププログラム報告

第3期ダイヤモンドアスリートは認定式に引き続き、リーダーシッププログラムを受講した。具体的なプログラムの前に、ダイヤモンドアスリートプログラムの創設に尽力し、現在は本連盟強化委員会ディレクターである山崎一彦氏（順天堂大学教授）より、ダイヤモンドアスリートとは？について、下記の5点から説明がなされた。

1) 陸上競技を通じた国際人となること

君たちが目指すことは五輪でのメダル獲得だけではなく、単にそのことだけを頑張っているだけではなく、国際的な感覚を身につけたリーダーとなり、国際的に活躍してほしい。

2) まわりの景色が見えてからあえて見ない

国際的な競技会では、何を記憶していたのか。大規模な競技会において、実力を発揮するためには、まわりがみえない→まわりがみえるようになる→みえているがあえてみない、ような感覚が必要であったと感じていた。君たちがそこでみえているものはどんなものか、を考えて国際競技会に望んでほしい。

3) 失敗は最初にしておく

競技キャリアの最盛期や終盤では失敗をすることが難しくなる傾向にある。実は今が失敗できるときである。時間的にも余裕があり、ある意味で失うものは何もないのが実は今であることを認識して、チャレンジしてほしい。

4) マルチタスクを確立する

一流選手は、実は1つのこと（競技）だけをやっているわけではない。陸上競技以外の武器をもつこと、それが何になるのかを考えてほしい。現代の効率化された練習は、時間に余裕を生じさせていることから、その時間を有効利用すれば、何かが見つかる。

5) 遠回りを最短でいく

まとめとして、矛盾のある表現ではあるが、この言葉を頭の片隅に置いて様々な活動を推進してほしい。

第1回リーダーシッププログラムは、ゲストスピーカーに学校法人インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢代表理事の小林りん氏をお招きし、為末大氏の司会兼ファシリテートのもと進行された。

まず小林氏のバイオグラフィーを紹介しておきたい。小林氏は小学校から高校1年までを日本で過ごし、5教科を満遍なく勉強したくない、苦手教育ばかり押し付けられるなどの理由から退学、その後カナダの全寮制インターナショナルスクールに単身留学した。留学中に、学校に行けることは当たり前ではないといった社会格差を目の当たりにし、大学院卒業後は、いくつかの企業で失敗を繰り返しながらなんとか自分のやりたいことを諦めずに続けていた。前職ではユニセフでストリートチルドレンの非公式教育に携わり、だれもが学ぶことができる、どんな立場からでも世界を変えていける人を育てたいとの思いから学校の設立を決意。2008年から7年の歳月を経て2014年に最大の目標であった学校を設立した。

為末氏は矢継ぎ早に質問を繰り返しながら、次第に選手たちからも質問がでるようになった。その中で質問とそれに対する回答の実際をいくつか紹介することによって報告とさせていたきたい。

Q: 本当の意味で国際的なリーダーとして活躍するためには??

A: 1. 多様性を生かすことができる、2. 問いをたてる、3. 困難に立ちむかう

自分のあたりまえじゃないところにあたりまえがあることを許容していくことが必要。社会が何を必要としているかも大事だが、自分が何にパッションをもっているかが大事。

Q: 日本の子どもたちの特徴とは?

A: 日本人は最初、様子をみる、観察する、空気を読もうとする。私は「国際人=やじろべーの支点になる人間」だと考えている。先のとおり、実は日本人は得意なのはとも思う。ただし、日本人はNoをはっきりいえない。どっちの意見かはっきりいえることも大事。

Q: 英語がわからなかったときに努力、工夫したこと

周りの諸外国からの留学生も、結構みんなめちゃくちゃな英語なので、しゃべれることを間違えを気にせずにしゃべることが重要。フランスのアラン著の幸福論の中にある「悲観は気分には属するが、楽観は意思である。」が座右の銘。意思を持って未来を切り開いていく姿をまわりがみえているので、困難に直面したときこそ、これを大事にしてきた。

Q: 自分がいろいろな経験をした結果、心がけていることは何ですか?

A: 先ほどの、やじろべーを気をつける。具体的には、その場に入った瞬間の距離感と空気感に対するセンサーを鋭くする。人のことを名刺や学歴で判断しない。学歴やそのときの職位や職歴を排除したときの「一人の人間」として他人を評価していくこと。私自身、過去にそうしてくれた人は、一生大切にしている。自分の状況の良いときにしてくれた周りの人が、悪いときにはいなくなるので、肩書きが外れたときに勝負。

Q：良い失敗とはなんでしたか？

A：自分が失敗してどん底にいた暗黒時代にこそ、自分自身が一番謙虚であり、一番成長できた時期であった。心の強さは困難でしか鍛えられないと感じている。設立した学校でもできるだけ失敗をしてもらうように仕組んでいる。死なない程度の失敗なら、リスクにいとんでいく方がよい。今の社会のスピードはものすごい。現代でリスクをとらないことの方が、リスクとなる。**為末A**：小さな一歩だが、本人の中では大きな一歩、その繰り返しが大事。リスクをとるのもその繰り返しである。

Q：国際人であることも大事だが、自分が日本人であることも大事。日本人だからこそできたことは何ですか？

A：日本の拠点で世界の架け橋になること。海外に行ったら、日本人として着目され、日本人のアイデンティティを確認させられる。そのことが問われ続け、自分にも問い続けていくこと。**為末A**：日本の中で決めた特徴は、日本の中の周りの人と比べての特徴。海外では実は違っている、日本の基準とグローバル基準とをそれぞれ持つこと、その中に日本人らしさもセットで培われる。

Q：世界に共通する子どもの特徴とは何ですか？

A：自分が自分らしくありたいと思う心。環境を準備してあげると一生懸命やる。

ここまで一例を示してきたが、誌面の都合上すべてのQ&Aは紹介できていない。為末氏のファシリテートもあり、非常に良い雰囲気の中プログラムが進行されていたが、このことに加えて、小林氏がスポーツや競技者とは一線を画しているにも関わらず、国際人であり、リーダーであり、リーダーシップ教育の必要性を感じた教育者であることが一因であろう。このような人物によるプログラムやその人たちのつながりは、今後のリーダーシッププログラムのポイントの1つになると考えられた。

最後に、小林氏からダイヤモンドアスリートへのメッセージをいただいたので、これをまとめて変えさせていたきたい。松下幸之助さんの言葉で「成功する人はあきらめない人だ。」が強く心に刻まれている。失敗しまくっていても、絶対にあきらめない人が、振り返って成功した人だと思う。なぜなら、失敗だらけの私が、こんなに上手くいくはずがないのだから。

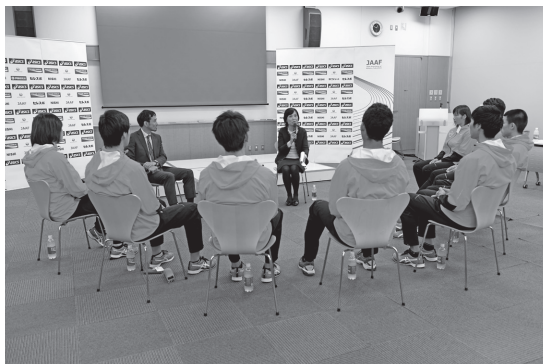
表2 ダイヤモンドアスリート修了生

性別	種目	氏名	所属	PB
男子	400	北川 貴理	順天堂大学	45.52
	400	岩本 武	順天堂大学	46.86
	L J	佐久間 滉大	法政大学	7m82
	H J	平松 祐司	筑波大学	2m28

表1 2016-2017ダイヤモンドアスリート

性別	種目	氏名	所属	PB	2016年度主な成績
男子	100m/200m	サニブラウン アブデルハキーム	城西大附属城西高等学校	10.22/20.34	静岡国際 200 m 2位 セイコーゴールデンランプリ 100m 5位
	100m/200m	山下 潤	筑波大学	10.44/20.67	U20世界選手権 200 m 8位 U20世界選手権 4×100mR 2位 日本ジュニア選手権 200 m 1位
	100m/200m	犬塚 涉	順天堂大学	10.28/20.87	アジアジュニア選手権 200 m 3位 U20世界選手権 4×100mR 2位
	走幅跳	橋岡 優輝	八王子高等学校	7m75	U20世界選手権 走幅跳 10位 インターハイ 走幅跳 1位 日本ジュニア選手権 走幅跳 1位
	棒高跳	江島 雅紀	荏田高等学校	5m46 (日本高校記録)	U20世界選手権 棒高跳 6位 インターハイ 棒高跳 1位 日本ジュニア選手権 棒高跳 1位
	砲丸/やり投	池川 博史	滝川第二高等学校	16m70 (6.000kg) 70m03	U20世界選手権 やり投 出場 インターハイ やり投 1位
女子	やり投	北口 榛花	日本大学	61 m 38	U20世界選手権 やり投 8位 日本選手権 やり投 3位
	やり投	長 麻尋	和歌山北高等学校	56m48 (高2歴代最高)	アジアジュニア選手権 やり投 5位 インターハイ やり投 1位 日本ユース選手権 やり投 1位
	3000m	高松 智美 ムセンビ	薫英女学院高等学校	8 : 58.86	インターハイ 3000 m 3位 (日本人最高)

…2016年度新規認定者



公益財団法人日本陸上競技連盟 強化委員会 一覧

強化委員長

1. トラック&フィールド/競歩

ディレクター (兼任)

伊東 浩司 (甲南大学)

ディレクター

伊東 浩司

山崎 一彦 (順天堂大学)

(1) ゴールドターゲット

1) ナショナルチーム

①男子100m/200m/4×100mR

オリンピック強化コーチ

荻部 俊二 (法政大学)

②男女競歩

オリンピック強化コーチ

今村 文男 (富士通)

(2) メダルターゲット

1) 個人種目

①男子400mH

オリンピック強化コーチ

磯 繁雄 (早稲田大学)

②男子棒高跳

オリンピック強化コーチ

吉田 孝久 (日本女子体育大学)

③男女やり投

オリンピック強化コーチ

田内 健二 (中京大学)

(3) TOP8 ターゲット

1) 個人種目

①男子800m

オリンピック強化コーチ

松井 一樹 (日本大学)

②男子110mH

オリンピック強化コーチ

櫻井 健一 (国際武道大学)

③男女3000mSC

オリンピック強化コーチ

岩水 嘉孝 (資生堂)

④男子走幅跳

オリンピック強化コーチ

森長 正樹 (日本大学)

⑤男子三段跳

オリンピック強化コーチ

杉林 孝法 (金沢星稜大学)

⑥男子走高跳

オリンピック強化コーチ

吉田 孝久

⑦男子十種競技

オリンピック強化コーチ

松田 克彦 (名古屋学院大学)

2) ナショナルチーム

①男子400m/4×400mR

オリンピック強化コーチ

荻部 俊二

②女子リレー

オリンピック強化コーチ

瀧谷 賢司 (大阪成蹊大学)

(4) ワールドチャレンジ

1) 個人種目

①男女中距離

オリンピック強化コーチ

小林 史和 (愛媛銀行)

②女子ハードル

オリンピック強化コーチ

前村 公彦 (環太平洋大学)

③男女投てき

オリンピック強化コーチ

等々力信弘 (ミズノ)

④女子跳躍・女子七種競技

オリンピック強化コーチ

伊藤 信之 (横浜国立大学)

2. 長距離・マラソン

マラソン強化戦略プロジェクト

リーダー

瀬古 利彦 (DeNA)

長距離・マラソン

ディレクター

河野 匡 (大塚製薬)

(1) メダルターゲット

1) 個人種目

①女子長距離

オリンピック強化コーチ

野口 英盛 (積水化学)

2) ナショナルチーム

①男子マラソン

オリンピック強化コーチ

坂口 泰 (中国電力)

- ②女子マラソン
- (2) TOP8 ターゲット
- 1) 個人種目
- ①男子長距離

オリンピック強化コーチ 山下佐知子 (第一生命グループ)

オリンピック強化コーチ 綾部 健二 (九電工)

3. 強化育成

ディレクター 麻場 一徳 (山梨学院大学)

(1) U20

オリンピック強化コーチ 杉井 将彦 (浜松市立高校)

(2) ダイヤモンドアスリート

プログラムマネージャー 朝原 宣治 (大阪ガス)

4. 情報戦略

ディレクター 青木 和浩 (順天堂大学)

コーディネーター 広川龍太郎 (東海大学)

法務 清水 真 (潮見坂総合法律事務所)

海外拠点・国際情報 大嶋 康弘 (日本陸連事務局)

医事 田畑 尚吾 (慶應義塾大学医学部
スポーツ医学総合センター)

科学 田原圭太郎 (東京大学医学部附属病院)

杉田 正明 (三重大学)

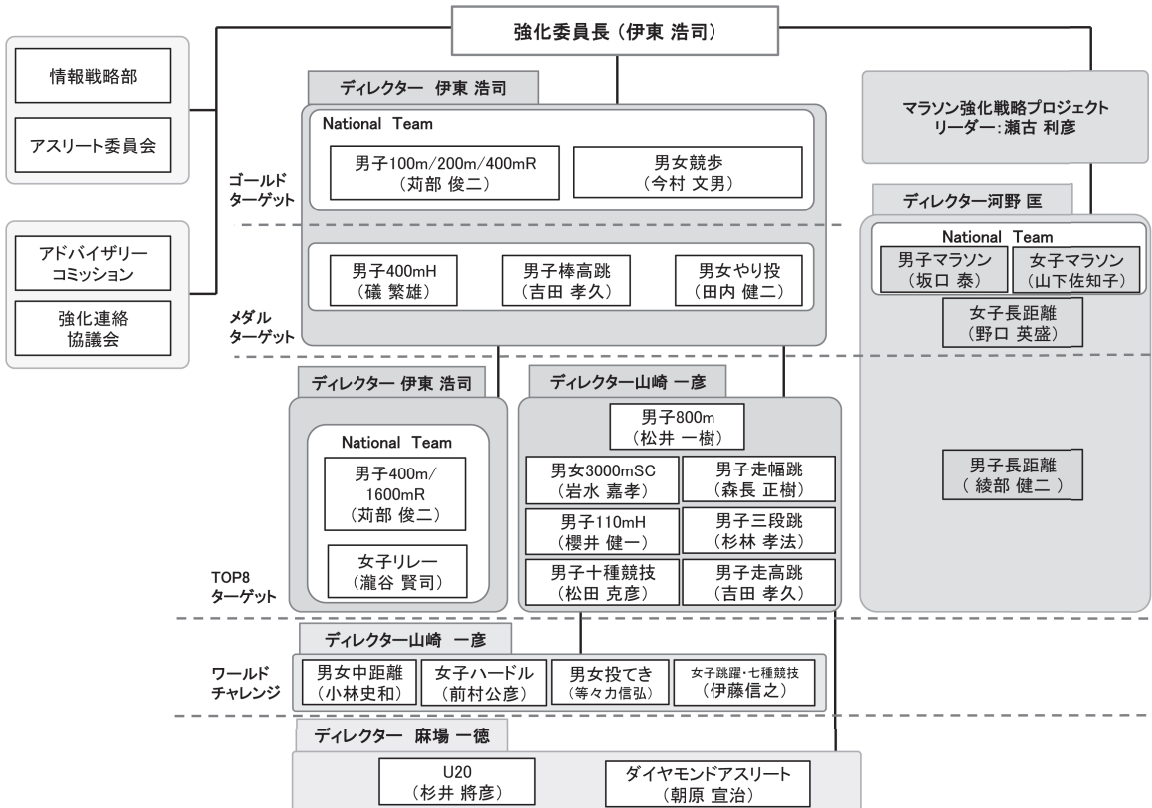
久保田 潤 (日本スポーツ振興センター)

競技規則 (国内・国際) 関 幸生 (日本陸連事務局)

※任期は、2017年6月開催予定の定時評議員会集結の時まで

公益財団法人日本陸上競技連盟 強化委員会組織図

2016年11月24日



第42回世界クロスカントリー選手権大会(2017/カンパラ)

日本代表選手選考要項 (案)

大会期日：2017年3月26日（日）

開催地：カンパラ（ウガンダ）

1. 編成方針

国内トップレベルの競技力を有する競技者、又は今後日本の陸上長距離界を担うことを期待される競技者で編成する。

2. 選考競技会

第100回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走（2017年2月25日（土）：海の中道）

シニア： 男子12km（本大会シニア男子12km日本代表選考レース）
女子8km（本大会シニア女子8km日本代表選考レース）

ジュニア：男子8km（本大会U20男子8km日本代表選考レース）
女子6km（本大会U20女子6km日本代表選考レース）

3. 種目及びエントリー枠

(1) 種目

- 1) シニア 男子12km / 女子8km
- 2) U20 男子8km / 女子6km

(2) エントリー数

各レース最大8名エントリー可能。ただし、出場は6名（団体戦は上位4名の得点）

4. 選考基準

〈シニア種目（男子・女子）〉

- (1) 選考競技会の上位6位から代表選手を選考する。
- (2) 選考競技会6位以内の競技者が出場を辞退した場合は、各種目最低4名を派遣するために、選考競技会又は2016年度の主要競技会の実績から、本大会の編成方針を踏まえて選考する。

〈U20種目（男子・女子）〉

- (1) 選考競技会の上位6位から代表選手を選考する。
- (2) 選考競技会6位以内の競技者が出場を辞退した場合は、各種目6名を派遣するために、本大会の7位以下の競技者から、選考競技会又は2016年度の主要競技会の実績から、本大会の編成方針を踏まえて選考する。
- (3) 必要に応じて、補欠選手を選考することがある。

5. 選考方法

選考基準に則り全ての選考競技会終了後に、強化委員会にて選考原案を作成し、専務理事が承認する。

6. 補足

- (1) 種目毎の代表は、国際陸上競技連盟エントリールール以内の人数とする。
- (2) 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消すことがある。

功労章・秩父宮章・高校優秀指導者章・中学優秀指導者章・勲功章・競技者育成章

2015年度功労章、秩父宮章、高校優秀指導者章、中学優秀指導者章、2016年度勲功章、競技者育成章を、第71回国民体育大会陸上競技会の開催期間中の10月8日（土）、国体会場である岩手県・北上市の北上総合運動公園北上陸上競技場で授与致しました。下記にて受章者の方々を紹介致します。

2015年度・功労章

(年齢・役職等は2016年3月31日現在)

区分	所属	氏名	年齢	役職
近畿	和歌山	南 正晃	75	和歌山陸上競技協会 副会長・専務理事
本部	学連	神尾正俊	73	日本学生陸上競技連合 副会長
本部	—	田中克之	74	(元)日本陸上競技連盟 理事・国際委員長

2016年度・競技者育成章

氏名	所属	内容
清 尊徳	藤枝明誠高校	飯塚翔太の高校時代の指導者
佐藤 常保	(元)藤枝明誠高校	飯塚翔太の高校時代の指導者
柴田 博之	洛南高校	桐生祥秀の高校時代の指導者
梶原 道明	東洋大学	桐生祥秀の大学時代の指導者
淵野 辰雄	日本大学	ケンブリッジ飛鳥の大学時代の指導者
荻原 信幸	長野県立上田東高校	荒井広宙の高校時代の指導者
内田 隆幸	小松短期大学	荒井広宙の大学時代の指導者
岩井 浩	(元)印西市立印西中学校	澤野大地の中学校時代の指導者
越川 一紀	順天堂大学	澤野大地の高校時代の指導者

2015年度・秩父宮章

(年齢・役職等は2016年3月31日現在)

No	区分	所属	氏名	年齢	役職
2045	北海道	北海道	鈴木 博	79	北海道陸上競技協会 参与
2046	東北	岩手	金谷 敏彦	79	岩手陸上競技協会 副会長
2047	東北	宮城	佐藤 昌弘	62	宮城陸上競技協会 副会長
2048	東北	福島	佐藤 勇	73	故 (元) 福島陸上競技協会 理事長
2049	関東	栃木	大谷津 薫	65	栃木陸上競技協会 理事長
2050	関東	茨城	中山 清	70	茨城陸上競技協会 副会長
2051	関東	群馬	川崎 弘	73	群馬陸上競技協会 副会長
2052	関東	埼玉	田中 肇吉	78	埼玉陸上競技協会 参与
2053	関東	山梨	花田 武	74	山梨陸上競技協会 参与
2054	東京	東京	村田 延雄	75	東京陸上競技協会 専門部副部長
2055	北陸	新潟	渡辺 敏彦	69	(元) 新潟陸上競技協会 会長
2056	北陸	富山	長勢 甚遠	72	富山陸上競技協会 顧問
2057	東海	長野	下川 泰秀	77	長野陸上競技協会 副会長
2058	東海	静岡	鳥井 啓市	64	東海陸上競技協会 常務理事
2059	東海	愛知	櫻井 一美	66	愛知陸上競技協会 理事
2060	東海	岐阜	黄倉 寿雄	64	岐阜陸上競技協会 専務理事
2061	近畿	滋賀	坂 一郎	64	滋賀陸上競技協会 専務理事
2062	近畿	京都	谷口 博	66	京都陸上競技協会 副専務理事
2063	近畿	大阪	安田 賢司	68	大阪陸上競技協会 理事
2064	近畿	兵庫	宮永 正俊	61	兵庫陸上競技協会 副専務理事
2065	中国	島根	錦織昭十四	77	島根陸上競技協会 参与
2066	中国	岡山	小寺 吉郎	70	岡山陸上競技協会 監事
2067	中国	広島	河野 裕二	62	広島陸上競技協会 専務理事
2068	四国	香川	都村 忠弘	80	香川陸上競技協会 会長
2069	四国	愛媛	浅野 隆	61	愛媛陸上競技協会 理事
2070	九州	福岡	西村 真直	75	筑豊地区陸上競技協会 理事長
2071	九州	佐賀	江下 達郎	73	佐賀陸上競技協会 副会長
2072	九州	熊本	平井 徳子	73	熊本陸上競技協会 審判員
2073	九州	宮崎	清 昭人	73	宮崎陸上競技協会 理事
2074	本部	実業団	賀屋 健治	66	中国実業団陸上競技連盟 顧問
2075	本部	学連	藤井 邦夫	67	東北学生陸上競技連盟 会長
2076	本部	高体連	萩山 弘一	57	全国高体連陸上競技専門部 競技委員長
2077	本部	マスターズ	佐野 昭二	70	日本マスターズ陸上競技連合 常務理事
2078	本部	強化委員会	石塚 浩	60	日本陸上競技連盟 強化委員会情報部長
2079	本部	競技運営委員会	若崎 義治	63	日本陸上競技連盟 競技運営委員会副委員長

2016年度・勲功章

氏名	所属	種目	内容
山縣 亮太	SEIKO	男子4×100mリレー	第31回オリンピック競技大会 (2016/リオデジャネイロ) 2位
飯塚 翔太	ミズノ	男子4×100mリレー	第31回オリンピック競技大会 (2016/リオデジャネイロ) 2位
桐生 祥秀	東洋大学	男子4×100mリレー	第31回オリンピック競技大会 (2016/リオデジャネイロ) 2位
ケンブリッジ飛鳥	ドーム	男子4×100mリレー	第31回オリンピック競技大会 (2016/リオデジャネイロ) 2位
荒井 広宙	自衛隊体育学校	男子50km競歩	第31回オリンピック競技大会 (2016/リオデジャネイロ) 3位
澤野 大地	富士通	男子棒高跳	第31回オリンピック競技大会 (2016/リオデジャネイロ) 7位
松永 大介	東洋大学	男子20km競歩	第31回オリンピック競技大会 (2016/リオデジャネイロ) 7位
川合伸太郎	慶応義塾大学	—	山縣亮太の指導者
豊田 裕浩	中央大学	—	飯塚翔太の指導者
土江 寛裕	東洋大学	—	桐生祥秀の指導者
友岡 和彦	ドームアスリートハウス	—	ケンブリッジ飛鳥の指導者
松村 慎二	自衛隊体育学校	—	荒井広宙の指導者
加藤 弘一	日本大学	—	澤野大地の指導者
酒井 俊幸	東洋大学	—	松永大介の指導者

2015年度・高校優秀指導者章

(年齢・役職等は2016年3月31日現在)

地域	氏名	年齢	陸上の地位	指導実績				
				選手名	年	大会名	種目	順位
北海道	飯島 進也	37	斜里高等学校陸上競技部 顧問	外川 天寿	2014	全国高校総体	走幅跳	3位
青森	楠美 雅行	40	青森県高体連 短距離コーチ	寺田 拓斗	2015	国民体育大会	5000m競歩	7位
岩手	高橋美紀子	55	千厩高等学校陸上部 顧問	菅原 純平	2011	全国高校総体	走幅跳	5位
宮城	齋藤 俊光	48	宮城県高体連陸上競技専門部 監事	條川 誠	1995	全国高校総体	三段跳	4位
秋田	佐藤 隆弘	48	角館高等学校陸上競技部 顧問	納谷 博仁	1992	国民体育大会	走高跳	8位
山形	高橋 正知	50	山形県高体連陸上競技専門部 副委員長	宮内 勝史	2014	全国高校総体	走幅跳	4位
福島	畑中 良介	49	福島陸上競技協会 駅伝部長	菊池 敦郎	2005	全国高校総体	3000m障害物	1位
茨城	内田 昌美	52	茨城県高体連陸上競技専門部 駅伝委員	山本 和也	2002	全国高校総体	3000m障害物	7位
栃木	前田 芳久	55	栃木県高体連陸上競技専門員	津金 恵美	2013	全国高校総体	砲丸投	出場
群馬	村田 勇	51	群馬県高体連陸上競技専門部 委員長	菅井 洋平	2003	国民体育大会	走幅跳	1位
埼玉	高橋 和栄	58	高体連北部地区 強化委員	山田 夏葵	2015	日本ジュニア選手権	400mH	3位
千葉	浅野 真吾	52	西武台千葉高校陸上競技部 顧問	染谷 翔	2015	国民体育大会	400m	1位
東京	千野 達也	52	東京都高体連陸上競技専門部 強化委員	星 裕太	2002	国民体育大会	ハンマー投	1位
神奈川	二宮 祥浩	54	神奈川陸上競技協会 強化委員	真原 健一	1990	全国高校総体	円盤投	2位
山梨	松嶋 暢夫	50	日本大学明誠高校陸上競技部 顧問	中村 圭	2010	日本ユース選手権	400m	出場
新潟	和田 紀明	44	新潟県高体連陸上競技専門部 普及強化部長	広田 有紀	2013	全国高校総体	800m	1位
富山	高田 友子	51	富山陸上競技協会 女子部副部長	福島 龍二	2015	全国高校選抜	八種競技	5位
石川	尾谷 力	47	石川県高体連陸上競技専門部 強化部員	津島絵里華	2001	ジュニアオリンピック	1500m	2位
福井	平木 寿治	46	福井陸上競技協会 審判委員長	濱出 大輔	2013	国民体育大会	100m	6位
長野	内山みのり	48	(元)長野県立長野高校陸上部 顧問	瀧沢 彩	2011	世界ユース選手権	400mH	4位
静岡	岩田 佳久	52	静岡県陸上競技協会 理事	川野 将虎	2015	国民体育大会	5000m競歩	2位
愛知	谷 政人	50	愛知県高体連 名古屋南支部長	森 凧沙	2014	ユースオリンピック	やり投	3位
岐阜	藤村 純子	60	岐阜陸上競技協会 理事	新木 詩乃	2015	全国高校総体	100m	4位
三重	中武 隼一	31	三重陸上競技協会 強化部中長距離コーチ	塩澤 稀夕	2015	全国高校総体	5000m	5位
滋賀	藤居 久智	53	滋賀陸上競技協会 投擲強化コーチ	吉田 浩二	2006	国民体育大会	ハンマー投	1位
京都	野中 悟	52	京都陸上競技協会 強化・普及部長	大橋 美佳	1997	全国高校総体	走高跳	1位
大阪	平林 伸一	57	大阪府高体連陸上専門部 地区審判長	川口 真弥	2015	全国高校総体	七種競技	1位
兵庫	河岡 稔和	54	兵庫県高体連陸上競技部 強化コーチ	松本 岳大	2011	世界ユース選手権	400mH	3位
奈良	山岡 道弘	58	奈良陸上競技協会 事務局長	奥野 正光	1992	全国高校総体	砲丸投	6位
和歌山	森下 康士	41	和歌山県高体連陸上競技専門部 競技力向上副委員長	橋尾伊武希	2009	全国高校総体	ハンマー投	3位
鳥取	福光 博久	51	鳥取陸上競技協会 財務部委員	柏村 亮太	2009	国民体育大会	ハンマー投	1位
島根	黒崎 康子	50	平田陸上教室 普及活動	郷原 剛	1994	全国高校総体	800m	1位
岡山	森定 照広	52	岡山陸上競技協会 強化委員	荒島 夕理	2014	全国高校総体	400mH	1位
広島	前田 義行	46	広島陸上競技協会 強化委員	真野 友博	2014	国民体育大会	走高跳	4位
山口	八谷 孝徳	59	山口県高体連陸上競技専門部 山防支部競技力向上委員	塩山 健一	2013	国民体育大会	100m	4位
徳島	福見 秀樹	42	徳島陸上競技協会 強化委員会跳躍部長	山村 拓磨	2011	全国高校総体	三段跳	7位
香川	久保田晶典	51	香川陸上競技協会 競技運営委員長	星川 修一	2003	日本ジュニア室内	三段跳	2位
愛媛	和家 哲也	44	愛媛陸上競技協会 強化委員	上田 俊希	2015	世界ユース選手権	10000m競歩	5位
高知	熊本 正彦	50	高知陸上競技協会 強化部長	浅利宗一郎	2013	県中長距離記録会	3000m	1位
福岡	原田 千博	54	祐誠高校陸上競技部 監督	原田 彩希	2015	日本ジュニア室内	走幅跳	2位
佐賀	峰原 敏行	58	佐賀学園高校陸上部 顧問	野上 雅弘	2015	国民体育大会	100m	6位
長崎	堀内 伸郎	42	長崎陸上競技協会 競技部長	山口 大我	2015	日本ユース選手権	110mH	6位
熊本	大城戸靖雄	36	熊本県高体連陸上専門委員	江里口匡史	2006	国民体育大会	100m	1位
大分	佐藤 功治	45	大分県高体連 別枠支部長	舛田 淳一	2003	高校総体北九州地区予選	走高跳	1位
宮崎	今村 修	44	宮崎県高体連陸上競技専門部 専門委員長	宮地 杏美	2002	全国高校総体	走幅跳	4位
鹿児島	山元 尚史	45	鹿児島県高体連陸上専門委員	内之倉由美	2014	全国高校総体	走幅跳	2位
沖縄	山原 茂人	51	宮古地区高体連陸上専門部 副部長	友利 響平	2015	全国高校総体	走高跳	出場

2015年度・中学優秀指導者章

(年齢・役職等は2016年3月31日現在)

地域	氏名	年齢	陸上の地位	指導実績				
				選手名	年	大会名	種目	順位
北海道	松本 稔	38	本室蘭中学校陸上競技部 顧問	中谷 駿	2015	全日本中学	200m	3位
青森	森 永田 徳美	48	青森県中体連 投てきコーチ	山下 優衣	2013	全日本中学	砲丸投	5位
岩手	吉田 学	48	岩手県中体連陸上専門委員長	石川 匠	2015	東北大会	四種競技	2位
宮城	村上みどり	52	仙台市中体連陸上競技専門委員	石岡 柚季	2011	全日本中学	走高跳	2位
秋田	齋藤 元	52	秋田市中体連陸上競技専門委員長	柴田 裕介	1999	東北大会	110mH	2位
山形	柴田 依子	59	山形県中体連陸上競技専門部 コーチ	安孫子充裕	2003	ジュニアオリンピック	200m	3位
福島	武藤 利教	35	福島県陸上競技協会 ジュニア強化部跳躍主任	岡崎 達也	2010	全日本中学	走幅跳	1位
茨城	坂本由香里	50	茨城県中体連陸上競技専門部 強化部	杉山かほる	2013	ジュニアオリンピック	100m	出場
栃木	鈴木 智喜	49	宇都宮市陸上競技協会 理事	河野 晴友	2003	全日本中学	3000m	1位
群馬	青山 崇	37	群馬県中体連 強化委員	久保塚高志	2015	全日本中学	400m	2位
埼玉	花岡すずみ	60	県・草加市中体連陸上専門部 強化委員	桶谷 南実	2014	ジュニアオリンピック	800m	2位
千葉	福井 康則	40	千葉県小中体連長生支部陸上競技 専門部長	平野 壮太	2015	全日本中学	100m	1位
東京	山口 賢司	56	東京陸上競技協会 理事	—	2008	全中駅伝	駅伝	出場
神奈川	関口 晶雄	46	神奈川県中体連陸上競技専門部 副部長	長村 佳子	2006	全日本中学	100mH	1位
山梨	河野 直人	44	県小中体育連盟陸上競技専門部 競技部長	荘 久慧	1998	全日本中学	走幅跳	1位
新潟	早川 信哉	38	新潟県中体連陸上競技専門部 強化部長	中野 涼司	2003	全日本中学	800m	1位
富山	岡田 悦郎	57	富山県中体連陸上競技専門部 地区主任	利川 瑛博	2012	全日本中学	走幅跳	5位
石川	深浦 隆史	37	石川県中体連陸上競技部 副専門委員長	小笠原朱里	2015	全日本中学	1500m	1位
福井	宮本 巧	48	福井陸上競技協会 強化委員	細田 潤	2005	ジュニアオリンピック	800m	出場
長野	杉村 秀樹	45	(元)長野県中体連陸上競技専門部 投擲コーチ	竹村 地智	2013	全日本中学	四種競技	2位
静岡	小嶋 久典	49	静岡陸上競技協会 ジュニア強化委員	大城 彩貴	2005	全日本中学	走高跳	8位
愛知	石場 治	48	東三河陸上競技協会 理事	下り藤修大	2000	ジュニアオリンピック	ジャベックスロー	1位
岐阜	久川 直之	47	岐阜陸上競技協会 理事	堀 翔大	2010	ジュニアオリンピック	走高跳	5位
三重	小西 孝明	48	三重県中体連陸上競技 強化委員長	長澤 拓輝	2015	全日本中学	走幅跳	2位
滋賀	山林 聡	52	滋賀県中体連陸上競技専門部 役員	川尻 涼介	2010	ジュニアオリンピック	円盤投	3位
京都	相模 浩史	52	京都陸上競技協会 常務理事	平賀健太郎	2014	全日本中学	110mH	3位
大阪	北口 徹	55	大阪府中体連陸上競技部 専門委員会委員	石田 麻美	2003	全日本中学	三種競技B	1位
兵庫	六角 光昭	54	兵庫県中体連陸上競技部 競技部長	中尾 大樹	2012	ジュニアオリンピック	1500m	4位
奈良	原口 雅哉	54	奈良県中体連陸上競技専門部	安立 夏澄	2011	全日本中学	200m	2位
和歌山	鈴木 忍	48	日高地方中体連陸上競技 専門委員長	山澤 優	2012	ジュニアオリンピック	円盤投	出場
鳥取	浅野 雄二	40	鳥取県中体連 副専門委員長	岡崎 汀	2015	ジュニアオリンピック	100mH	3位
島根	鐘築多津子	48	島根県中体連陸上競技専門部員	—	2015	全日本中学	4×100mリレー	出場
岡山	石井 健二	48	岡山県中体連陸上競技専門部 強化部長	上村 竜司	2011	全日本中学	110mH	1位
広島	杉原 太志	53	尾道市中体連陸上競技専門委員長	二本松結衣	2014	ジュニアオリンピック	100mH	1位
山口	平屋美恵子	53	防府市立右田中学校陸上部 顧問	塩山 健一	2012	全日本中学	100m	1位
徳島	三木 健司	50	藍住中学校陸上部 顧問	中川 春奈	2015	県中学校新人陸上	100m	2位
香川	安宅 裕美	44	高松市立木太中学校 外部指導者	坂東 琉太	2014	全日本中学	走高跳	2位
愛媛	池田 邦広	53	大西中学校陸上部 顧問	求 大地	2011	ジュニアオリンピック	3000m	6位
高知	木村 憲章	42	高知陸上競技協会 副理事長	田井野悠介	2015	全中駅伝	駅伝	3位
福岡	井上 真一	56	前原西中学校陸上競技部 顧問	上田 百寧	2014	ジュニアオリンピック	ジャベックスロー	3位
佐賀	小川 朋子	41	多久中央中学校陸上部 顧問	出雲 一真	2011	九州中学陸上	3000m	6位
長崎	大瀬 雄也	37	長崎陸上競技協会 強化部跳躍ブロック主任	佐藤 美愛	2015	国民体育大会	100mH	出場
熊本	井上 達晃	38	球磨郡中体連陸上競技種目 理事	—	2013	全日本中学	4×100mリレー	5位
大分	阿南 義則	49	佐伯市中体連陸上競技専門部長	小畑 葵	2015	ジュニアオリンピック	走幅跳	7位
宮崎	田原 義雄	38	宮崎県中体連陸上競技専門部委員	—	2015	全日本中学	4×100mリレー	3位
鹿児島	橋口 光秀	42	鹿児島県中体連専門委員長	森 奈津美	2012	ジュニアオリンピック	200m	3位
沖縄	宜寿次政哉	46	伊波中学校陸上競技部 監督	平良光勇真	2015	ジュニアオリンピック	100m	3位

第85回アジア陸上競技連盟(AAA)カウンシル会議 報告

会長 横川 浩

2016年10月27日に第85回アジア陸上競技連盟のカウンシル会議がカタール・ドーハで開催されたので、国際陸上競技連盟 (IAAF) のカウンシルメンバーとして参加した。Sebastian Coe IAAF会長も出席し、同会議の翌日には、IAAFガバナンス体制改革に関するエリア説明会が実施された。カウンシル会議概要は以下の通りである。

1. Coe IAAF会長の発言

昨年来、陸上界は厳しい時期を迎えているが、今年は一つ一つの課題に真摯に取り組み、組織体制を強化する事が出来た。リオ・オリンピックでは選手が素晴らしい成績を残し、多くのアジア人選手も活躍を見せたが、とりわけ日本のリレーチームの銀メダル獲得は印象的であった。IAAFにとっては、改革の一年であり、12月臨時総会でのガバナンス体制改革案の承認に向けて、各エリアで説明会を実施し、考えを共有していく。

2. Dahlan AAA会長の発言

陸上界は強い姿勢を持って、危機的な局面に立ち向かってきた。アジアも自分達のスポーツのインテグリティを守るために、確固たる戦略を立て、活動を推進しなければならない。選手の強化戦略、マーケティング活動、競技場施設の整備等、アジアには多くの課題があるが、AAAの活動の成果は確実に現れてきている。

3. アジア・プレミア・マラソン (APM)

2017年からアジアのマラソン・リーグを創設し、中国のInfront Sports & Mediaが運営に参画する。APMにはアジアの5~6大会の参加を想定しているが、現時点で参加を表明しているのは、北京マラソンとソウルマラソンである。目的はアジアに於けるマラソン

イベントの大会価値と競技レベルの向上であり、アジアの選手は、2大会以上に参加する事によって、その合計順位で賞金を獲得する事が出来る。

4. スポンサー契約

AAAは、計時/計測機器やウェアの提供を中心に、マーケティング活動を継続して行っており、興味を示すスポンサーも出てきている。アジアの大会では国際大会を開催する際、計時・計測機器が整っていない、役員やボランティアが着用するウェアの提供がないケースが多く、AAAがオフィシャル・スポンサーを獲得する事が、アジアの競技会レベルの向上に繋がる。

5. 今後の課題

AAA憲章やアジアの競技会カレンダー見直し、アジア戦略プランの策定、アジアのマラソン・ラベリング規定の作成、AAA大会の開催国負担条件の再検討等を実施する。又、アジアのトップ選手が、アジア選手権に出席していない現状を踏まえ、エリア大会への出場の義務化を検討する。

6. 今後の大会予定

- ・アジアマラソン (中国・東莞) 3月26日
- ・アジアユース選手権 (タイ・バンコク) 5月19日~22日
- ・アジア選手権 (インド・ランナー) 6月1日~4日
- ・アジアグランプリ (3戦) ① (中国・嘉興市) 4月24日 ② (中国・金華市) 4月27日 ③ (中華台北・台北市) 4月30日

7. 上記に加え、各コミッションと各AAA大会の実施報告、準備状況の報告が行われた。

IAAFガバナンス体制改革に関するエリア説明会 報告

陸連事務局事業部国際専任部長 関 幸生

2016年10月27日(木)~28日(金)に、カタール・ドーハで、国際陸上競技連盟 (IAAF) のよるガバナンス体制改革に関するエリア説明会が実施された。

説明会は、IAAFのセバスチャン・コー会長が、改革の主旨と内容を自身の言葉で加盟団体に伝え、考えを共有することを目的として、つぎの日程で、世界のすべてのエリアを巡って開催されており、アジア対象の今回は30数カ国からの参加があった。

10月10日 北中米カリブ、12日 南米、15日 ヨーロッパ、21日 オセアニア、27日~28日 アジア、11月2日 アフリカ。

アジアでの説明会には、IAAFから、コー会長のほか、ガバナンス体制改革ワーキンググループの責任者と事務局の法務担当が出席し、説明と質問への回答をおこなった。

昨年8月のコー会長就任以降、ワーキンググループが、IAAF憲章の改定を検討。本年7月、アムステルダムにエリアの代表を集めて行われたフォーラムでの意見交換を経て、8月、リオでのカウンシル会議で承認を得たものが最終案として加盟団体に示された。

陸連時報11月号に詳細が報告されているが、改革案は、次の点を基本とした内容となっている。

①役割、責任の明確化 ②選手の声を反映させる体制 ③ジェンダーバランス ④独立したアンチ・ドーピング、インテグリティ、懲戒機能。

これら改定案は、2017年から有効となる内容と2019年から有効の2部構成となっているが、12月3日(土)にモナコで開催される

IAAF臨時総会では、一括採択される。

説明会では、複数の質問や意見があり、コー会長や担当者からは丁寧な説明があった。

(質問) なぜ急ぐのか。

⇒一連のスキャンダルによる複数のスポンサー撤退は危機的状況であり、スポンサー企業はIAAFの改革を注視している。

(質問) なぜ一括採択なのか。

⇒様々な修正が、すべてに影響しており、条項ごとの採択はできない。

(質問) エリアの会長とIAAF副会長の兼務禁止。なぜダメなのか。エリア会長が副会長に当選した場合、再度、エリア会長選挙が必要となり余計な負担となる。

⇒副会長はエグゼクティブ・ボード (EB) メンバーとなり、新憲章下でのEBは重要な役割となる。年に10回以上会合があり、兼務は難しい。

(意見) カウンシルの男女比、将来的 (2023年) に男女半々。自国では、女性候補がない。

説明会の終わりに、アジア陸連のダーラン会長からは、「批判でなく、ハーモニーを」という発言があったことから、改正案に、わだかまりのある加盟国もあるようであった。

全エリアの説明会終了後、コー会長から微修正がなされた改正案は、臨時総会での結論を待つことになる。IAAF憲章を改正するには、3分の2の賛成が必要となる。

2016 国際陸連CECSレベルI 講師リフレッシュセミナー報告

開催期日：2016年10月26日～29日

開催場所：国際陸上競技連盟地域発展センター北京（IAAF RDC Beijing）

参加者：秋元恵美・原 悦子・田中悠士郎

講師：Mr. Yingbo ZHANG, Ms. Biyu ZHANG

形式：東アジア地区のレベルI講師有資格者。参加者は日本以外に、中国、香港、ベトナム、ラオス、マカオ、台湾、北朝鮮、モンゴルから計17名が参加。

1. 国際陸連コーチ教育認証制度について

国際陸上競技連盟（以下、IAAF）のコーチ教育認証制度（IAAF Coaches Education & Certification System: 以下、IAAF CECS）は、国際的なコーチ資質向上と世界的な規模で陸上競技の発展を目指して取り組むものである。この教育システムは、IAAFが認めた講師により、定められた教材を用いて行われることが特徴である。

2. 新システムへの移行とその概要について

2007年3月以降、現行の5段階システムで行われていたが、2016年より新たなシステムへと移行されることとなった。この新システムでは、従来の5段階から3段階へ改変され、従来よりもスリム化されることとなった。（図1）それぞれのカテゴリにおけるコース概要は次の通りである。

（NewレベルI）全ての陸上競技種目を網羅する。U16世代の基本的なトレーニングについて学ぶことを目的としている。

※従来システムのレベルI及びIIが統合された。

（NewレベルII）専門種目群について網羅する。U20世代のトレーニングを計画しコーチングすることを目的とした内容となっている。

※従来システムのレベルIIIに該当する。

（NewレベルIII）専門種目群のエリート選手をコーチングすることを目的とした内容となっている。

※従来システムのレベルIVに該当する。

3. IAAF CECS Level I Refresh Seminar in RDC Beijing セミナー概要

新システムへの移行に伴い、レベルI講師（有資格者）に対して、東アジア地区の拠点となるIAAF地域発展センター北京（IAAF RDC Beijing）においてリフレッシュセミナーが2016年10月26日から10月29日の4日間で開催された。セミナーの趣旨としては、新システムへの移行に伴う「NewレベルI」のカリキュラムについて理解し、講師として自国での活動ができるように再教育することであった。そのため、セミナーの主な内容は、1日目が「NewレベルIにおける従来システムからの変更点の紹介」2日目から4日目が「講師としての実技と理論の講習手順や資質確認と再教育」に当てられた。新しく加わる内容や用語など重要な部分について理解をしているかを確認する為に、最終日には筆記試験が設けられた。閉講式では、セミナー内で行った「指導実践」、「理論プレゼンテーション」と「筆記試験」の総合結果が発表され、自国でのコーチコースの開催ができる「講師」、単元の担当ができる「授業講師」、「不合格」の三段階に分けて評価された。

なお、本セミナーでは、英語と中国語に訳された教材を使用し、中国語が

中心の講義が展開された。我々には、北京体育大学の李 曉恵 教授が通訳を担当し、講師認定に向けて尽力して下さった。

本セミナーにおける具体的な講習内容は次のとおりである。

1）NewレベルIにおける従来システムからの変更点の紹介

従来のシステムから大きく異なる点は、従来のレベルIIに該当する範囲まで指導対象となったことだろう。それに伴い、キッズ世代からジュニア世代までのアスリートを対象として指導することを想定しているため、それぞれの世代の特徴（身体的・精神的）の把握は当然ながら、全ての陸上競技種目への理解と模範指導が資質として求められる。また、トレーニング計画に必要な知識やスポーツ栄養学やスポーツ心理学、スポーツ生理、バイオメカニクスなどの基礎的なスポーツ科学の知識も必要となる。また新たに「Coaches Eye」という項目が加わり、より実践的なコーチングができる内容となった。従来のレベルIIと同様にIAAFのテキストである「RUN! JUMP! THROW!」及び、「INTRODUCTION TO COACHING」の内容を中心に理論と実技の講習が展開されることになる。

2）講師としての資質確認と再教育

新システムへの移行に伴い、従来のシステムでの講師への適性確認が行われた。受講生は2つのグループに分かれて指導実践を2回行い、場の設定や指導の手順、模範内容などがIAAFの指導方法に沿ったものになっているか講師や他の受講生より評価された。また、その方法から、大きく外れたものについては、厳しく評価された。

また、理論講習のプレゼンテーションにおいては、全員が20分ずつ受講生の前で講義し、IAAFの教材の内容を理解しているかなどを含めて講師や他の受講生より評価され、講師から細部にわたり指導された。

4. 所感

今回のセミナーの参加趣旨は、日本国内で実施する為に、NewレベルIについての、カリキュラム内容の確認と理解をすることが目的であった。実際に受講して感じたことは、新システムについての紹介はもちろんのこと、参加者の（有資格者）の指導技術の確認にも力を入れていたように感じられた。

NewレベルIのカリキュラム内容については、新しく入る部分も多少あったが、概ね従来システムにおけるレベルIIの内容が中心に導入されることになっており、その為、他国の参加者には戸惑いがあったように感じられたが、幸いなことに我々、日本からの参加者3名は、従来のシステムにおけるLevel Iコーチの有資格者であったため、比較的大きな混乱もなく、限られた期間のセミナーであったが概要について理解することができた。

最終日には、講師2名に加えてRDC北京のテクニカルディレクターであるSUN氏の3名より総合的な評価を受けた。評価の結果として、今回受講した3名ともIAAFの求める講師の基準を満たしているとのことだった。特に、評価の中で好評をいただいた点としては、日本国内におけるこれまでのIAAF CECSの普及活動の成果の表れで経験値が高く、またIAAFが求める指導方法に沿った指導であったとのことだった。そして、現在までこのシステムの普及について勢力的に取り組む日本陸上競技連盟及び、関係者に対する敬意を表して頂いたと同時に、引き続きシステムの普及とRDC北京との連携の継続をお願いされた。今回のセミナーへの参加は、短い期間ではあったが、東アジア諸国の関係者との交流も図ることができ、大変有意義な経験をさせて頂いた。

終わりに、滞在中に大変お世話になったRDC北京の関係者及び北京体育大学の先生方に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。



図1 New IAAF CECS システム移行図 (IAAF CECS Lecturer 資料より引用)



セミナー参加者による集合写真

通訳をして下さった李 教授と参加者3名（左から原・李教授・秋元・田中）



指導実践の様子（フィードバック中）



講義プレゼンテーションの様子

第12回全国小学生陸上競技交流大会優秀選手「研修会」報告

普及育成委員会 普及育成部 副部長 熊原 誠一

第32回全国小学生陸上競技交流大会（2016年8月19～20日・神奈川県横浜市日産スタジアム）決勝進出者の中から優秀選手を選出し、将来の有望選手としての意識・意欲（モチベーション）づけと、その指導者・保護者に陸上競技の一貫指導（発育発達に応じた指導）の重要性を理解してもらうために実施している。内容としては研修会ならびに選手の形態・体力・走動作等の測定と日産スタジアムで開催されていた「第47回ジュニアオリンピック大会兼第100回日本選手権リレー競技大会」を観戦した。

実施内容を以下のとおり報告する。

1. 日程および場所

2016年10月29（土）～30日（日）1泊2日

- 1日目：・形態および体力測定 横浜市スポーツ医学センター
・トップ選手との交流会及び測定結果説明 新横浜プリンスホテル
- 2日目：・選手：栄養研修会 指導者：情報交換会 新横浜プリンスホテル
・第47回ジュニアオリンピック大会兼第100回日本選手権リレー競技大会観戦 横浜日産スタジアム

2. 参加者

「第32回全国小学生陸上競技交流大会」において決勝進出者の中から6年100m（男子6名・女子8名）・80mH（女子1名）・ジャベール投（女子1名）・4×400mR（女子1名）を選出し、選抜された17名の選手と、それぞれの選手の指導者17名、総計34名が参加した（参加者名簿参照）。費用は、

（公財）日本陸上競技連盟（以下、日本陸連）が全額を負担し、招待した。なお、参加者には事前に「中学校で継続して陸上競技を行う」「将来オリンピック選手になりたいという意欲（高いモチベーション）を持っている」「5・6年生の新体力テストの結果の提出と今後日本陸連の調査等に協力できる」を条件として打診し、全参加者から理解が得られた。

3. 役員および講師

- 〈ゲスト講師〉
- ・海老原 有希選手（スズキ浜松AC）
 - 〈栄養研修会講師〉
 - ・大畑 好美（普及育成部委員）
 - 〈スタッフ〉
 - ・繁田 進（普及育成委員長）、熊原 誠一（普及育成部副部長）、井筒紫乃（普及育成部幹事）、大畑好美（普及育成部委員）、岸 政智（普及育成部委員）、陸連事務局

4. 詳細スケジュール

10月29日（土）

- 13：00 役員集合・打合せ（日産スタジアム）
- 14：00 選手・引率者集合 横浜市スポーツ医学センター入口受付終了後、横浜市スポーツ医学センター測定室へ移動
- 14：10 開講式 横浜市スポーツ医学センター測定室内
司会 岸普及育成委員
挨拶 繁田普及育成委員長
- 14：20 測定に関する説明
（横浜市スポーツ医学センター吉久武志研究員）



<指導者・選手リスト>

都道府県	カテゴリ	氏名	フリガナ	所属	引率指導者氏名
北海道	男子6年100m	山田 楓河	ヤマダ フウガ	美幌RC	小野 篤
福島	男子6年100m	佐藤 己朗	サトウ コオ	福島大TC	佐藤 智治
神奈川	男子6年100m	山口 竜	ヤマグチ リュウ	KaJAC	院田 健司
兵庫	男子6年100m	安保 祐希	アボ ユウキ	兵庫大開小学校	安保 幸明
静岡	男子6年100m	四反田翔汰	シタダ ショウタ	ST函南	杉山 雄介
大分	男子6年100m	井元 楓	イモト カエデ	滝尾陸上クラブ	井元 英人
三重	女子6年100m	世古 綾葉	セコ アヤハ	神社小学校	明田 欣也
兵庫	女子6年100m	吉島 ゆい	ヨシジマ ユイ	高砂小学校	吉島 順子
東京	女子6年100m	関田 結穂	セキタ ユイホ	武蔵野東AC	関田 幸弘
秋田	女子6年100m	佐藤 杏	サトウ アン	有浦クラブ	佐藤 篤
宮崎	女子6年100m	星川 七海	ホシカワ ナナミ	延岡ジュニアクラブ	河野多美子
山口	女子6年100m	藏重 みう	クラシゲミウ	光市陸上スポーツ少年団	須田 雅昭
山形	女子6年100m	笹川 愛琉	ササカワ アイユ	寒河江西村山ジュニアアスリートクラブ	志藤 晃一
京都	女子6年100m	多田 愛望	タダ マナミ	京都市小学生陸上競技教室	多田 博美
北海道	女子80mH	納村 琉愛	ノウムラ ルナ	深川陸上クラブ	日高 勇一
愛知	女子4×100m	土居 幸愛	ドイ ユナ	岡崎ジュニアアスリートクラブ	松井 昭宏
岩手	女子ジャベリックボール投	千葉 春花	チバ ハルカ	萩荘小学校	山田 直幸

- 14:30 〈測定〉
測定項目:身長・体重・体脂肪率・骨量・骨年齢レン
トゲン・走動作撮影
- 16:00 測定終了
測定修了者は競技会観戦、送迎バスにて新横浜プリン
ステルへ移動
- 18:30 夕食
- 19:30 トップアスリート交流会 司会 岸普及育成委員
海老原有希選手(スズキ浜松AC)を迎えての交流会
質疑応答、写真撮影
- 20:30 測定結果の説明
(横浜市スポーツ医科学センター吉久武志研究員)
- 21:00 終了・解散
- 10月30日(日)
- 7:00 朝食
- 9:30 研修会
選手:栄養研修会(大畑普及育成委員)
海老原有希選手(スズキ浜松AC)研修会参加・
交流会
指導者:意見交換会(繁田委員長) タレントラン
スファーについて
今までの研修会成果について報告(井筒普及
育成部幹事)
- 11:30 〈閉講式〉
挨拶:繁田普及育成委員長
～終了後、「ジュニアオリンピック大会兼日
本選手権リレー競技大会」観戦
選手・指導者の帰省時間に合わせて順次解散
以上、全日程終了

5. まとめ

本研修会も12回目の開催となり、この研修会に参加した選手が中
学に進学し、全国中学陸上・ジュニアオリンピックや国体等で活躍
する姿も見られるようになってきた。今年度は参加条件に理解が得
られた選手17名、指導者17名の計34名の参加で実施した。

測定においては、横浜市スポーツ医科学センタースタッフの皆様
のご協力でスムーズに行うことができた。全国小学生陸上競技交流
大会で共に競技した選手同士なので、すぐに打ち解け、楽しそうに
交流すると共に、積極的、意欲的に測定に取り組んでいた。また、
指導者も熱心に測定を見学していた。

ホテルでの夕食では親しかった小学生同士テーブルに着き、
各々食べたい料理を取り、和気あいあいと楽しく食事をしていた。

夕食後は岸普及育成委員の司会で、ゲストに海老原有希選手(スズ
キ浜松AC)をお招きし、「トップアスリートとの交流会」を実施した。

最初に海老原有希選手からリオ・オリンピックに参加した感想か
らお話しいただいた。

「前回のロンドン・オリンピックでは、頭の中が真っ白になってし
まい、何が何だか分からない内に競技が終わってしまっていた感じ
だった。この反省から落ち着いて競技をするために十分な自信を持
てるようになり準備をしてリオには臨んだ。結果には満足ではな
かったが、悔いが残るようなことはなかった。」ということでした。
オリンピックの選手村についての質問には、「選手村のレストランは
世界中から集まる選手に対応していろいろな料理があり、24時間
いつでも食事ができ、料理もおいしかった。また、選手村にはマク
ドナルドがあり、味は日本と変わらないので、食事が合わない場
合は利用するとよい。」など面白い話をしていただき、参加者は
興味深く聞いていた。

小学生の頃はどんな遊びや運動をしていたのかという質問には、
「栃木県出身で小学生時代は里山で体を動かして遊んだり、球技を
やったりしていて、陸上はやっていなかった。」ということでした。

専門のやり投げについては、「高校に入学してから始めた。高校

の顧問がやり投げの専門だったので、本格的に始めた。インターハ
イは混成競技で優勝して、やり投げは2位になってしまい、大学で
やり投げを頑張る大きな要因になった。」ということでした。

交流会終了後、午後に行われた測定の結果がデータ化・資料化さ
れ、それぞれの参加者にデータが配布された。横浜市スポーツ医科
学センター吉久武志研究員に説明をしていただき、個人データに基
づいたフィードバックがなされた。最後に、海老原有希選手を囲み、
参加者全員で記念撮影を行い、予定の21時を少し過ぎて、1日目の
研修を終了した。

翌日は、9時30分よりホテル内の研修室において、指導者と選手
に分かれての研修会を行った。

指導者研修は、初めに井筒普及育成部幹事による「今までの研修会
成果についての報告」を短時間ではあったが聞いていただいた。その
後、陸連が今年度まとめたタレントトランスファーについての説明を
繁田普及育成委員長が行い、最後に指導者・保護者からの意見交換
会が行われた。短い時間ではありましたが、指導者の熱い思いが伝わ
り、現場の活動状況を把握する上では、大変有意義な研修会であっ
た。

小学生は、大畑普及育成委員による「小学生のスポーツと栄養」
についての講義が行われた。

初めに、昨日の夕食と今朝の朝食で何を食べたか?という質問が
出され、小学生は一生懸命思い出しながら記入していた。「主食・
主菜・副菜・乳製品・果物」の5種類を食べる、おやつはお菓子だ
けではなく、エネルギー源となるバナナ・パン・おにぎりがよいと
いった内容が進められた。最後にまとめとして、3人組でテーマ
を決めて料理の写真カードを使用して献立を考え、発表した。海老
原選手も小学生と一緒に参加して献立作りをやっていた。

その後、小学生・指導者スタッフ全員が集合し、繁田普及育成委
員長が閉講の挨拶、海老原選手には今後の抱負についてお話しした
だけ閉講式を終えた。

閉講式後は、各々横浜日産スタジアムで行われているジュニアオ
リンピック観戦をし、適宜帰宅の途に就いた。

今回で12回を迎えることとなった「全国小学生陸上競技優秀選
手研修会」は、全国小学生陸上競技交流大会に出場した選手を今後
どのように指導し、育成していくかといった課題を検討するために、
第21回大会の各種目優勝者ならびにその指導者を集めた「第1回全
国小学生陸上競技優秀選手研修会」として、2005年9月に開催した。
2005年から2016年まで約140名の小学生がこの研修会を巣立って
おり、中学生・高校生となってからも活躍する選手が育ってきてい
る。しかしながらその一方では優秀な資質を持った若い競技者が競
技から早期に離脱するということも報告されている。若い資質のある
競技者がより長く競技・スポーツを楽しみ、実施してもらうために、
今年度陸連としてタレントトランスファーについての提言を行いま
した。現在まで12回の研修会で収集した優秀選手のデータや指導者
から頂いた意見等の資料もこのような対策に役立っており、今後も
本研修会をどのように実施するのか、検討をしたいと考えている。

最後に、測定およびデータの提供をしていただいた横浜市スポ
ーツ医科学センターのスタッフの皆さまに感謝申し上げます。





写真提供：オールスポーツコミュニティ

2017 **2.19** SUN 会場：千葉市「昭和の森」千葉市緑区土気町22

ENTRY

2017年1月16日(月) 23:59まで

定員になり次第締切



詳しくは で検索

U16 Championships 第2回全国中学生クロスカントリー選手権大会 募集種目

U16 Boys Championship
(中学生選手権男子)

3 km

U16 Girls Championship
(中学生選手権女子)

3 km

参加者全員に「大会オリジナルTシャツ」プレゼント

◎参加資格：2016年度日本陸上競技連盟登録者で2001年4月2日～2004年4月1日生まれの男女で中学校に在籍している選手。

◎参加申込：「RUNNET」からお申込見下さい。インターネットからのエントリーのみとなります。その他、電話等でのエントリー受付はしておりませんのでご了承ください。

主 催：日本陸上競技連盟

後 援 予 定：スポーツ庁、公益財団法人日本中学校体育連盟、千葉県、千葉県教育委員会、公益財団法人千葉県体育協会、千葉市、千葉市教育委員会、毎日新聞社、スポーツニッポン新聞社

主 管：一般社団法人千葉陸上競技協会

協 賛：アシックスジャパン株式会社、大塚製薬株式会社、日本航空

協 力：株式会社ニシ・スポーツ、株式会社セレスポ、東日本旅客鉄道株式会社

大会観戦ガイド

男子第67回 女子第28回 全国高等学校駅伝競走大会

師走の都大路を走る全国高校駅伝。今年、優勝するのはどのチームになるのでしょうか。是非、沿道、競技場で応援ください！

▼日時：2016年12月25日（日）

女子10時20分スタート

男子12時30分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

京都府・京都市西京極総合運動公園陸上競技場

▼アクセス：京都駅より

- ・阪急電鉄京都市線西京極駅から徒歩10分
- ・京都市営バス73号系統「西京極運動公園前」下車徒歩5分

▼区間・コース：

〈男子〉男子全国高校駅伝コース7区間42.195km

- ・第1区10km（西京極陸上競技場－烏丸鞍馬口）
- ・第2区3km（烏丸鞍馬口－丸太町河原町）
- ・第3区8.1075km（丸太町河原町－国際会館前）
- ・第4区8.0875km（国際会館前－丸太町寺町）

- ・第5区3km（丸太町寺町－烏丸紫明）
 - ・第6区5km（烏丸紫明－西大路下立売）
 - ・第7区5km（西大路下立売－西京極陸上競技場）
- 〈女子〉女子全国高校駅伝コース5区間21.0975km
- ・第1区6km（西京極陸上競技場－平野神社前）
 - ・第2区4.0975km（平野神社前－烏丸鞍馬口）
 - ・第3区3km（烏丸鞍馬口－室町小学校前折返し－北大路船岡山）
 - ・第4区3km（北大路船岡山－西大路下立売）
 - ・第5区5km（西大路下立売－西京極陸上競技場）

▼テレビ放映予定：NHK 総合テレビ

12月25日（日）10時05分～11時54分（女子）、
12時15分～14時52分（男子）

▼ラジオ放送予定：NHKラジオ第一

12月25日（日）10時05分～11時55分（女子）、
12時15分～15時00分（男子）

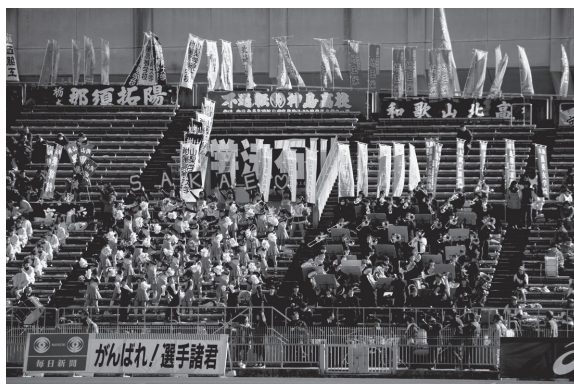
▼大会公式サイト：

<http://www.koukouekiden.jp/>

▼問合せ先：全国高等学校駅伝競走大会事務局

（京都府立北嵯峨高等学校）

TEL / FAX 075-865-2700



昨年度の大会より

事務局からのお知らせ

◆◆第25回日本陸上競技連盟トレーナーセミナー開催案内◆◆

日本陸上競技連盟医事委員会トレーナー部は、1) 陸上競技における選手サポート体制の確立、2) トレーナーの意識、知識、技術の向上、3) トレーナーの地位確立、を主旨として設立し、毎年「日本陸上競技連盟トレーナーセミナー」を開催しています。第25回セミナーは以下の要領で開催いたしますので、受講希望の方は申込方法に従ってお申込下さい。

期日：2017年3月24日（金）～26日（日）（3日間）

場所：帝京大学板橋キャンパス 教室

参加費：¥25,000（教材費込み）

定員：100名（先着順）

参加資格：

- ①現在陸上競技の現場に携わっている方（治療院・病院のみの活動では不可）
- ②救急法に関する資格を保有、もしくは救急法に関する講習等に参加したことがある方。あるいはセミナー開催までにいずれかの救急法の講習会を受講できる方。且つ、他人の助力なしに一人で救護活動ができる方。（特に資格提示の必要はなし）
- ③3日間全日程を受講できる方

申込方法：詳細は本連盟ウェブサイト <http://www.jaaf.or.jp/trainer/index.html> をご参照ください。

受付開始：2017年1月5日（木） 締め切り：2017年1月20日（金）

◆◆ダイヤモンドアスリート特設ページ公開！◆◆

本連盟認定の「ダイヤモンドアスリート」に関する情報提供を目的とした特設ページを公開しました！
「リーダーシッププログラム」をはじめとしたダイヤモンドアスリートの活動情報を随時掲載いたします。
ぜひとも、チェックしてみてください！

<http://www.jaaf.or.jp/diamond/>



陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩（陸連会長）
友永 義治（陸連副会長）
八木 雅夫（陸連副会長）
尾縣 貢（陸連専務理事）
伊東 浩司（陸連強化委員長）
風間 明（陸連事務局長）
牧野 豊（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘

◇時報編集担当

繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
高橋 祐哉
小川ちあき

陸連時報編集室

〒163-0717

東京都新宿区西新宿2-7-1

小田急第一生命ビル17階

公益財団法人日本陸上競技連盟 内

TEL 03-5321-6580

FAX 03-5321-6591

WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>

公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>